

# 2018年7月21日（土） 十勝岳登山&富良野散策

～Report by yosimatu

予定を変更して3日目に十勝岳に登ることにしました。

今日の山の天候は少々不安定で風も強いという予報。昨日の旭岳登山の疲れもあったので、無理をせずに可能な所まで登り、風雨が酷くなりそうだったら下山することにしました。もし下山が早まるようなら、最終日の予定に入っていた富良野の散策を前倒しですることにしました。

## 7月21日（土）3日目



（2階男性部屋）

4時にはガサゴソと起き出して十勝岳登山の準備を始めた。ホテル花神楽のコテージを引き払うので、全ての荷物整理も行わなければならない。

5時、コンビニ調達の朝食で腹を満たした。



6時、予定通りコテージを出発



快調に走って、7時20分には望岳台（標高930m）駐車場に到着。

十勝岳は今も活動を続ける活火山。下の写真は駐車場に隣接する望岳台シェルター。



山に懸かる雲は厚く、何時降り出してもおかしくない空模様であった。

十勝岳山頂を極められない可能性もあるので、いつもは山頂で取り出すクマさん旗を取り出して、望岳台の大きな岩の標識前で記念写真を撮った。



7時40分 望岳台出発

登山道は、火山特有の岩や瓦礫がどこまでも続いている。目指す十勝岳方面の雲は随分厚い。

この先の天気は予想できないが、兎に角避難小屋までは行くことにした。



比較的単調な道を30分ほどゆっくりと進んだところで、小休止。

昨日登った旭岳での暑さと大汗で、池戸さんは一寸バテ気味か。







暫く歩くと十勝岳へ向かう道を示す表示板が現れた。頂上に行けなかったときのために、板の矢印の辺りを隠し、十勝岳の文字をよく見えるようにして写真に収まった。ここから、避難小屋がかすかに見え始めた。



小休止から30分足らずで十勝岳避難小屋に到着した。

避難小屋は、十勝岳が噴火したときに緊急避難するためのものだ。中には、ヘルメットやボンベなどの応急用の資機材が備えられていた。





避難小屋前での記念写真

当面の到着目標であった避難小屋に到着したが、まだ雨が降り出しそうも無いので、もう一踏ん張りして昭和噴火口の見える辺りまで登ることになった。

小屋から先は急坂になる。お疲れ気味の池戸さんはここで登るのを断念して、先に望岳台へ下ることになった。残りの7人は、足場の良くない道を登り始めた。



登れども登れども、昭和噴火口は見えてこないで、能勢さん、布目さん、雄さん、吉松は、標識にあるところで良しとしようと心に決めたのだが・・・



先行していた元気の良い文ちゃん、岡部さん、中島さんが、更に上の方の岩の上から盛んに手を振って、ここまで来いと声を張り上げている。





スワ！！ あそこまで行けば昭和噴火口が望めるのか、と頑張ってはみたものの、やはり噴火口は望めず。

早朝に十勝岳に登頂して下山してきた人に状況を聞くと、噴火口が見える所までは未だ未だ先とのこと。また霧が深く風も強く、十勝岳山頂へ行くには相当な覚悟が必要なが分かった。



無理せず、十勝岳登山はここまでとすることにした。

池戸さんがいないのが残念ではあったが、7人で記念の写真に収まることにした。



9時35分

遙か下に望める望岳台に向かって下山開始



途中、避難小屋で小休止して、後は、一気に下った。



望岳台から十勝岳方面を振り返る。



旭岳と比較すると十勝岳への山道には花は少なかった。



11時、望岳台シェルターで、先に下山して待っていてくれた池戸さんと合流。

シェルター内でゆっくり昼食をとったり、十勝岳に関する資料を見たりしながら、身体を休めることにした。

午後の時間に、随分余裕が出来た。そこで、最終日に予定していた富良野の周遊をすることになった。まずは移動途中にある「青い池」に立ち寄り、「ファーム富田」で存分に花を楽しみ、「富良野マルシェ」で地元名産品の買い物をすることにした。

「青い池」は、もともと美瑛川左岸にある火山泥流を防ぐための堰堤。湧水に含まれる水酸化アルミニウムなどの影響を受けて、青い色を出すのだそうだ。海外からの観光客が大勢来ていた。





「ファーム富田」はラベンダー栽培で一世を風靡した。

花畑の美しさが有名なことは勿論だが、オイルや香水の製造販売まで手広く事業を行っている。

近辺道路での観光バス、自家用車の混雑は、北海道とは思えないほどであった。随分多くの人が敷地内に入っているはずなのだが、広さ故かそれをあまり感じさせない。

ラベンダーをはじめ、様々な花々が私たちを楽しませてくれた。







「富良野マルシェ」は、複合商業施設。

敷地内には地元産の果物や物産を販売している一角があり、そこでは関東にはないものが多く、ショッピングを楽しませてくれた。富良野版「道の駅」と言った感じか。



入り口近くにあった、本物の小玉スイカで出来たオブジェ



フラノマルシェ外観



店内



買ったぜ、メロン！

思い思いの買い物を済ませて、一路今日の宿泊先「ホテルベアモンテ」へ向かった。





旭岳ロープウェイ近くのホテルベアモンテ

ホテル花神楽とはひと味違う、しゃれたデザインの宿泊先だった。

温泉で今日1日の汗を流し、疲れを癒やした後はすぐに夕食。

美味しいもの尽くしのバイキングだ。



風呂上がりに、早速生ビールで乾杯！

ま〜、良く皆さん食べること！！

なにしろ、欠食児童かと思ふほどの健啖家たち。

男も喰うけど、クマ女も負けていない。

以下、ミダレ喰いの証拠を篤とご覧あれ！

（しかもお替わりが何度か続くのです！！）



部屋に戻ると、能勢さんが準備したワインが待っていた。





男性部屋に全員集合して、ワインを楽しんだ。  
ごちそうさま！



岡部さん、布目さんは先に女性部屋に引き上げたが、中島さんは男性陣に最後までつきあってくれた。  
22時頃に文ちゃんが横になって寝息が聞こえだした頃に、お開きとなった。

十勝岳登頂は出来ませんでしたが、登った気持ちにはさせてくれた1日でした。  
富良野周遊も余裕を持って行うことが出来て、皆さん満足げでした。